

一般入試後期D日程

国語

一

出典 酒井邦嘉「チョムスキーと言語脳科学」(集英社インターナショナル 2019年)

言語学の歴史を踏まえつつ科学との違いを論じた箇所からの出題です。論旨は明快ですから、文意を把握するのはそれほど難しくはないでしょう。

問1【漢字の読み・書き取りの問題】(解答番号 ①～⑦)

a ごい、b 対照、c 提唱、d ふきゅう、e 傾倒、f 感銘、g 規範、がそれぞれ正答です。「対照」を「対称」とする誤答が数多く見受けられました。同音異義語を含めて文脈から適切な読み書きをすることが重要です。全問正答率は8%でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ問題】(解答番号は ⑧)

正答は⑤です。空欄 Ⅰ 後の「そうであるように」と「やはり古代ギリシャから始まった」という表現から、正答を得るのは必ずしも難しくはないでしょう。正答率は61%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ問題】(解答番号は ⑨)

正答は③です。空欄 Ⅱ が直前の「仕組み」の言い換えであることを、多くの受験生が適切に読み取り、正答率89%でした。

問4【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ問題】(解答番号は ⑩)

正答は⑦です。空欄 Ⅲ の直後の「すでに」から直感的に、①「慣習」を選ぶ解答が目立ちましたが、この段落はチョムスキーの「両親」の話から始まり、彼の「家庭環境」が描かれていることから、「慣習」は誤答になります。正答率14%と芳しくありませんでした。

問5【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ問題】(解答番号は ⑪)

正答は⑥です。「通時言語学」の特性を理解することが肝要です。正答率61%でした。

問6【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ問題】(解答番号は ⑫)

正答は③です。前後の文脈から、科学における「再現性」の重要性を理解できているかどうか重要です。正答率86%と多くの受験生が正答を選んでいました。

問7【本文の内容に該当しないものを選ぶ問題】(解答番号は ⑬)

正答は②です。傍線部の前後だけではなく、選択肢の内容に関連する箇所を丹念に読みさえすれば、正答を導けるはずですが、正答率は67%でした。

問8【日本語に関する理解・知識を問う問題】(解答番号は ⑭)

正答は⑦です。英語をはじめとする西洋言語では品詞とされる「前置詞」は日本語の品詞に数えられません。誤答として多かった②「連体詞」は「自立語で、活用せず体言(名詞)を修飾する」品詞です。正答率は42%でした。

問9【言葉の意味に関する知識を問う問題】(解答番号は ⑮)

正答は⑦「白眉」で、意味は文字通り「白い眉毛」またはそこから転じた「多数あるもののうち、最もすぐれているものや人」を指す故事成語です。正答率は75%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は ⑯)

傍線部Dの前後の内容を把握しておけば、正答の①が導けるはずですが、正答率は94%でした。

問11【言葉の意味に関する知識を問う問題】（解答番号は17）

正答は②。誤答として多かった③や⑥は本文には書かれていません。正答率は61%でした。

問12【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は18）

正答は②です。それ以外の選択肢は本文には書かれていない内容です。正答率は44%でした。

問13【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は19）

正答は②で、正答率は56%でした。この節の主旨が、「科学」＝「サイエンス」が「現象論」だけでは十分ではない、ということがわかりさえすれば、正答するのは難しくありません。

問14【内容合致問題】（解答番号は20）

正答は⑥と⑧で、完全正答率は19%でした。①や④は末尾の「没頭」と「自ずと」などが、②、③、⑤は2行目以降の内容が、そして⑨は冒頭の「プラトンも参考にした」などが本文の内容に合致しません。

二

出典 阿部謹也「中世を旅する人びと」（筑摩書房 2008年）

川の「渡し場」とそこに集う人びとを通して、中世社会のあり方を描いた文章です。人びとの行為が制度化されることやその社会的な意味を意識しながら読解しましょう。

問1【漢字の書き取りの問題】（解答番号は21～27）

a 渡世、b 堤防、c 従前、d 怠慢、e 補償、f 畏怖、g 加担、がそれぞれ正答です。

すべて正しく書けた受験生はいませんでした。「堤防」の「堤」を「提」と書いている答案や、ホショウを同音異義語の中から正しく選択して書けていない答案が多数ありました。設問の指示にある通り「読みやすいはっきりした楷書体」で書けるように日頃から練習をしておきましょう。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は28～30）

空欄Ⅰは、前行にある「いささか酒気を帯びた文章で」がヒントです。正答は⑧です。正答率は36%でした。

空欄Ⅱは、アジュールとは古くからある慣習が制度化したものであることを理解できていれば正答を導くことができます。正答は②です。正答率は25%でした。

空欄Ⅲは、直前にある「いずれにも味方してはならない」がヒントです。正答は③です。正答率は94%でした。

問3【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は31）

渡し守が地域間交通の重要な担い手であったことを理解できれば、正答は⑤であるとわかります。正答率は28%でした。誤答の多かった③は、渡し守仲間団体を結成して「いたがゆえに」渡し守は権力を握っていたが誤りです。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **32**）

第1段落とそれに続く引用文の内容を読み取れていれば正答を導くことができます。正答は⑤です。正答率は22%でした。誤答の多かった①は、「市長と司祭から宴席に招待され」が誤りです。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **33**）

傍線部Cの段落の内容を理解できていれば正答を導くことができます。正答は④です。正答率は31%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **34**）

第7段落から第11段落に「近隣在住の者」にかかわる渡し場のきまりごとが書かれている中から「厄介な」ものを読み取ることができれば、正答は③であるとわかります。正答率は50%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **35**）

傍線部Eを含む第13段落から第15段落の内容を読み取れていれば正答②を導くことができます。正答率は36%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **36**）

第18段落とその内容を受けた第19段落、特に「復讐の輪がひろがってしまうこと」の内容を理解できれば、正答は⑥であるとわかります。正答率は44%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **37**）

第21段落から第23段落の内容を時代順に読み取れていれば正答⑤を導くことができます。正答率は19%でした。誤答の多かった②と④は、それぞれ「渡し守にもこれを破るべき例外が設けられ」と「責任の所在があいまいになった」が誤りです。

問10【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は **38**）

本節では、「威勢」がよい渡し守の存在と彼らを通して渡し場強制権とはどのようなものであったかを論じています。正答は①です。正答率は56%でした。

問11【内容合致問題】（解答番号は **39**・**40**）

正答は①と⑧です。①は第1・第11・第13・第14・第15段落に、⑧は第21・第24段落にそれぞれ記されています。1問正答率は42%、完全正答率は3%でした。誤答の多かった③は、ハゲネに関して「判告録がある」という箇所が、④は無料で渡河できる者があった理由を「近在の住民が共同体として渡し賃を一年払いしていたから」としていることがそれぞれ誤りです。